

今日の説教のポイント<使徒言行録 21 章 27～22 章 5 節>

①パウロ逮捕を扇動した人々の罪：思い込み・誤解・早急さ・残酷性

吉川英治の名作『宮本武蔵』の面白さの一つに、「お杉婆」が息子の幼友達武蔵を誤解して、憎んでどこまでも追いかけて回すエピソードがあります。思い込んだら聞く耳持たない。確かめもせず事を焦る。残酷な仕打ちも辞さない。人々を扇動してパウロを捕らえようとするユダヤ人の姿を読んで、はるか昔、夢中になって何度も読んだ小説のお杉婆を思い出しました。使徒言行録の著者ルカも、明らかに同じ人間の罪の姿を伝えようとしています。しかし、今日の聖書の箇所で大変な点は、被害を受けたパウロ自身が「それらは私自身の姿であった」と思っている点です(22:4-5)。そんな自分を神様は赦して下さった！パウロはそのことを深く知らされたのです。ひどいことをされても彼らに対するパウロの憎しみを感ぜない理由はそこにあるのです。

②またもや思う、神様が備えて下さった異邦人による助け

この危機を救ったのは異邦人千人隊長の介入でした。似たことは前にもありました。エフェソの町の書記官の介入です(19:35)。二つのことを思います。一つは、信仰者になっても苦難の出来事は起こるのだということ、起こっても不思議がる必要はないのだということ。もう一つは、そんな時にも私たちの予想を超えた救いの道が用意されているのだということ、そういう恵み・喜び・楽しみに出会えるのだということ。信仰者、何が起こっても恐れるに足りず、ですね！ そんな信仰の域に達したいものです。

③自分の罪、恥を堂々と言える。そこまで神様の救いを喜べる信仰を。

「今日の皆さんと同じように、熱心に神に仕えていました。私はこの道を迫害し、男女を縛り上げては獄に投じ、殺すことさえしたのです」(3-4)。自分の考えが正しいと思い込み、誤解し、残酷な罪を犯した自分。そのことに気づく出来事が起こったのです。神様が起こされ、ご自分の所に引き戻される出来事です。それは私たちにも起こして下さいます。神様がそのために与えて下さった聖書を読むことを通して必ずそれは起きるのです！ 神様を見上げながら、思い込み、誤解、残酷さから解き放たれることに取り組んでいきたいものです。